

えいらい

No.25

平成 27 年 10 月発行

発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者 / 院長 山本祐司 編集 / 松山市民病院広報委員会

OJTと学習と

～病院医療の現場で考える～

副院長 水上 祐治



平成24年春より続いた新棟建設が今年7月に完成しました。総合受付、外来、病棟(南)、各種検査・治療部門が新しくなり、患者さんに快適な空間で医療を提供する体制が出来上がりました。新設された各センター(手術室を含む)には最新の医療機器が整備され、専門職種も充実し、医療の高度化、IT化に対応しています。

また当院では、担当者の努力により2、3年前から初期研修医、新人看護師が増加しています。若い職員もベテランと一緒にチーム医療の一員に加わり、仕事に励み、良質な医療の提供を目指しています。

朝8時30分、新棟7階ナースステーション。「ポリペクをなめたらいかんよ」、M師長が朝の申し送り部下の若い看護師に諭すように教えているのを耳にし、同感だと思いました。大腸のポリペクは年間200例を超え、看護業務がルーチンワークと化し、機械的にならないようにとの注意です。大腸ポリプ切除後、出血は0.5～3%の頻度で発生します。血便が出た際には、夜間であっても主治医に報告し、緊急内視鏡検査、止血術を行うかどうか指示を受けなければなりません。

医療の現場はOJT(On the Job Training)の連続です。仕事と職業訓練が一体となっています。所属長は、若い職員に成功体験をさせながら専門性が身につくようにと配慮しています。年長者の持っている技能は長い間、実践し、修得した

後、自分なりの方法で発展させた貴重なものです。いろいろな場面でそれを教え込んでいます。チームで協力して仕事をするうちに、院内で共有されている規範意識、使命感も伝わっていきます。

人材育成の研究に、「適切な仕事経験の積み重ねは、小さなコストで高度な技能の修得を可能にする」という報告があります(小池和男2005)。どの職種の新人も数年経つと大分頼もしくなり、ある程度自立し、自分の裁量で仕事をできるようになります。

しかし、高度化し複雑な医療の様々な場面での確に対応するには、OJTだけでは不十分です。自分の持っている技能は医療の進歩と共に、そのままでは通用しなくなりますので、学習により絶えず自分の能力を磨き、鍛錬していくことが大切です。

消化器領域では治療内視鏡の発展は目覚ましく、適応範囲は広がり続けています。必然的に多数のメディカルスタッフの協力が必要となり、質の高い看護が求められます。学習は自発的に行うものですが、院内各部署での勉強会、病院全体での研修会、病院外での研究会、学会など、周りの支援も準備されています。

OJTと学習を通して、次の世代に当院の精神と技能を伝えていくことが、現在進行している医療界のパラダイムシフトへの備えになると考えます。



撮影：総務課 / 吉岡 博子 (四国カルスト)